長崎市立滑石小学校　校長室だより　Ｎｏ86

今日の一言

６．２．２９　校長　渕上　卓也

長崎の子どもたち

「６年生の作品が、長崎県美術館に展示されますよ。」とお聞きしたものだから、連休中観覧に出かけてみました。目にするのは、９月の平和集会以来ですね。素敵な子どもたちの作品がたくさん展示されている中、６年生の大きくて思いの伝わる作品には、引き付けられました。

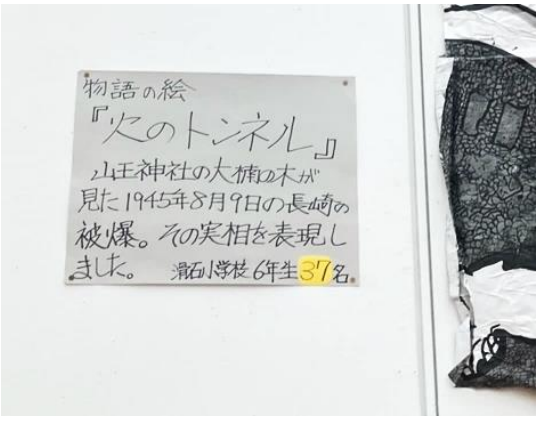
作品製作に取り組んだのは、暑さ厳しい７月のこと。汗びっしょりになりながら、そして手足を真っ黒にしながら、一筆一筆思いを込めて描いていた姿が思い起こされます。

先日開催された「平和教育講演会」において、パネルディスカッションがあり、３年１組担任の池田芙美先生がパネリストとして登壇されました。私も聞かせていただいたのですが、その中で池田先生が「長崎で育ち、長崎で教師になった者として、長崎の子どもたちに平和の大切さをしっかり教えていかなければならないと思っています。」と発言されました。同じ立場の渕上も、全く同感です。

当然のことながら、被爆者の高齢化がどんどん進んでいます。「最後の被爆者が・・・・」という日が必ずやってきます。長崎の子どもたちには、被爆者の平和への思いを引き継いでもらいたいです。昔、平宗公園にあった滑石小学校の校舎も、爆風で大きな被害を受けたとお聞きしました。道ノ尾駅には、救護列車で運ばれてきた人たちのための臨時の救護所が設けられました。この滑石地区においても、８月９日原子爆弾の大きな影響を受けているのです。

久しぶりに６年生の作品を目にして、平和教育についての思いを新たにした渕上でした。

「平和は長崎から。」「長崎を最後の被爆地に。」



＜今日の一句＞

長崎の
子どもが守る
平和な世　　卓也